

# 特集

あなたは

医療や介護が必要になった時

どこで過ごしたいですか？

医療や介護が必要になっても

住み慣れた家や地域で自分らしく過ごしていくために

高島市では高齢化率が県内でも2番目に高く、平成26年10月末現在では30・3%となっています。

高島市の特徴として、平成52年（2040年）までに、人口は年々減少し、特に生産年齢（16歳～64歳）の人口減少が著しく、反面、高齢者、特に85歳以上の高齢者人口は増加すると推計されています。

医療や介護が必要な人が急激に増える恐れがある一方、支え手となる若者は減り続けていきます。

そのような状況の中、病気になっても介護が必要になっても安心して老後を過ごすために、今からできることを考えておくことが大切です。

今年度、市民を対象に無作為抽出（約200名）で行った「在宅医療に関するアンケート調査」から、皆さんのニーズと実態を見てみましょう。

☎ 北部健康いきいき応援センター

☎ (22) 01993

☎ (22) 02992

☎ 南部健康いきいき応援センター

☎ (32) 25220

☎ (32) 39333

✉ (北部南部共通) houkatu@city.takashima.lg.jp



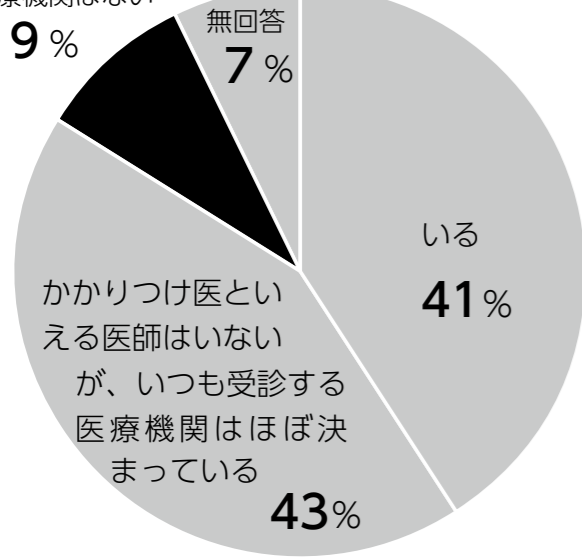
## Q 相談できるかかりつけ医はいますか？

かかりつけ医とは、日常的な診療や健康管理など気軽に相談できて診療してもらえる身近なお医者さんのことです。

右のグラフのとおり「かかりつけ医がおられる方」は全体の41%、「かかりつけ医という医師はいないが、いつも受診する病院は決まっている方」も43%「そのような医療機関はない」と回答された方は9%でした。

高島市の方はかかりつけ医もしくは決まった医療機関への受診をされている方が多いようです。

そのような医師  
・医療機関はない



## Q 医療や介護が必要になった時どこで過ごしたいですか？

「自宅で過ごしたい」と回答された方と「病院で入院を継続したい」と回答された方が約35%でした。実際に自宅で介護を受けている方やそのご家族は、「自宅で過ごしたいけど家族に迷惑がかかる」「体に急変があった時にどうしてよいのかわからないので不安」といった声がよく聞かれます。

在宅で安心して過ごすために必要なことは何でしょうか？



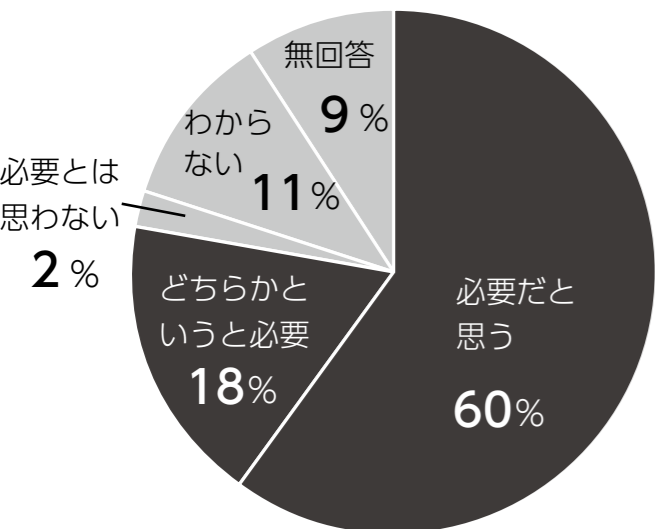
## Q 在宅医療の充実が必要と思いますか？

在宅での療養生活を安心して送るためには在宅医療の充実がますます必要となっていきます。

在宅医療とは、末期がん、認知症など通院が困難な患者さんが、住み慣れた自宅で必要な治療や介護が受けられる医療サービスです。

アンケート調査において在宅医療を「充実させることが必要」「どちらかといえば必要」と回答された方は全体の約80%となっています。

医療と介護を充実させるために必要な体制については「24時間いつでも見てもらえる体制」などの希望が上位を占めています。





10周年 振り返れば 高島

平成23年～25年編

### 孤立集落の生活を守る!! 自衛隊等の支援活動

平成23年、24年の冬は、高島が大雪が見舞いました。平成23年1月には、市職員の雪かき隊が高齢者世帯などの支援に当たり、平成24年2月には、大雪により孤立した集落の生活を守るため自衛隊の出動を得て、日常生活を取り戻すに至りました。



自衛隊の支援

### 便利さの代償を実感 東日本大震災

平成23年3月に発生した東日本大震災は、発生から4年を迎えようとする今日においても、その爪痕は癒えることはありません。未曾有の原子力事故は、便利さの代償を再認識する契機となりました。原発に隣接する本市も、平成23年8月に原子力防災対策室を設置して、原子力災害に備える体制を執るとともに、同年10月からは

平成25年度は、大きな災害や事件が重なりました。特に、9月に接近した台風18号は本市に豪雨をもたらし、一級河川鴨川の決壊や山間地の土砂災害、出水による浸水などの被害が発生しました。数年間受けたことのない大きな被害にもかかわらず、日常生活を取り戻せた背景には、大勢のボランティア、各機関・事業所等の災害支援、そして多くの義援金等によるもので、人と人が支え合う力の大きさに改めて気づかされた出来事となりました。この大きな災害を教訓に、平成23年以降も吹田市をはじめ農業協同組合4団体、県石油商業組合高島支部、市漁業振

### 9・16ショック 豪雨災害からの学び

大気中の放射線量の測定を開始しています。また、平成25年4月に滋賀県、長浜市、関西電力(株)、日本原子力研究開発機構および本市との間で原子力安全協定を締結するに至りました。



原子力安全協定 締結式

### 悲願の市民病院開院と 歴史文化の厚みを実感

喜ばしい出来事もあります。市民念願の高島市民病院の開院、それに先立つ近江高島駅のエレベーター設置が叶うなど生活基盤がまた一つ整いました。さらに、上御殿遺跡からの双環柄頭短剣の鋳型出土、高島の発酵食文化にスポーツを当てた全国発酵食サミットや清水安三先生の生涯をつづった市民劇の成功など、高島の歴史・文化・伝統の厚みに触れたことではないでしょうか。



高島市民病院開院



全国発酵食サミット

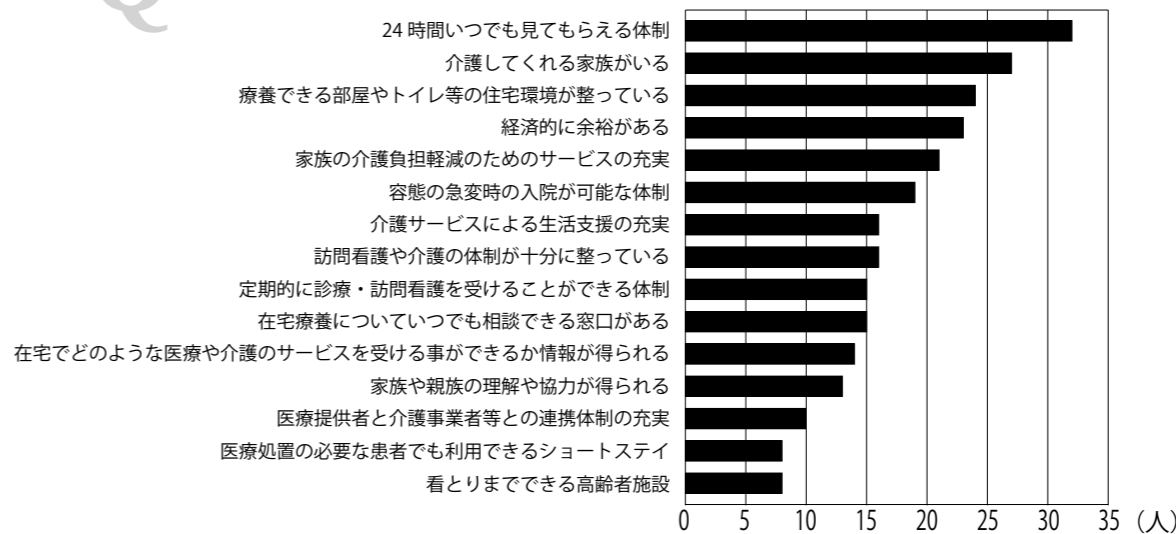
### 高島市制 10周年 記念事業

3月に開催される記念事業の概要をご紹介します。

実施日	事業名	事業内容	会場
3月	1 ひな祭りジャズコンサート・ファイナル 高島市民会館 (22) 1764	地元ジャズバンドとゲストの出演によるジャズコンサート。	高島市民会館
	15 「たかしま市民音楽祭 & 高島市さつやま劇場」 高島市民会館 (22) 1764	市制10周年を記念し、3年に1度開催している「高島市さつやま劇場」と「たかしま市民音楽祭」をドッキングして実施します。	高島市民会館
	22 たかしま★春の演劇祭 藤樹の里文化芸術会館 (32) 2461	ぶんげい芸術教室の発表公演と高島市内で活躍している演劇団体による公演です。	藤樹の里文化芸術会館
	26～29 第4回書道研究西嶺会書展 西嶺会展示部(澤井) (34) 0871	会員の習作作品と併せて「高島を書く」と題して、郷土ゆかりの万葉集や高島に関する文言を課題に、市制10周年の祝いの書作展とします。	藤樹の里文化芸術会館

※高島市制10周年記念式典は、諸般の事情により執り行わないことといたしました。

## 医療と介護サービスを充実させるために必要な体制は何だと思いますか？



## アンケート調査から 見えてきたもの

高島市の皆さんは、「かかりつけ医」を持っておられる方が多く、できれば在宅で療養したいというニーズが高いようです。反面、家族や周りの方に迷惑をかけることを心配されている傾向が強いことが読み取れます。将来、自分らしくいきいきと生活するために、また住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために今から私たちにできることは何でしょうか？

- 1 かかりつけ医を持ちましょう  
「かかりつけ医」を持つことは次のメリットがあります。  
①待ち時間が短く、受診の手続きが簡単でじっくり診察してもらえます。  
②日常の健康管理のアドバイスをしてもらえます。  
③入院や検査が必要な時は適切な病院や専門医を紹介してもらえます。  
④病歴や体のこと、生活習慣など理解してもらえ相談がしやすい。  
○他にも・・・  
「かかりつけ歯科医」や「かかりつけ薬局」を持つことも必要です。

- 2 相談できる人を身近に持ちましょう  
家族の介護負担を軽減するためには、身近に相談や「ぐち」を聞いてくれる人を持つことが欠かせません。日頃から気軽に話せる相手を持つことや、家族や友人、近所の人とのつながりを持ちましょう。地域のみんで支えあえる心安心ですね。
- 3 人生の最期をどう過ごしたいか考えておくことも大切です

### 在宅医療の推進に向けて

市では、医療や介護が必要になっても安心して自宅や地域で過ごしていただける体制整備を進めています。医師、福祉関係者、市役所など在宅療養に関わるすべての職種が、市民の皆さんと一緒に考えながら「顔の見える関係づくり」と「在宅療養推進のための取り組み」を一体的に進めています。

### 在宅医療・介護を支える地域づくり

住み慣れた家で、地域で自分らしく過ごしたい

### 在宅療養シンポジウム

参加無料

自分や家族の療養について考えるとともに、私たちにできることを考えてみませんか。

- ▶日時 3月7日(土) 13時30分～16時30分
- ▶場所 安曇川公民館
- ▶内容
  - 基調講演 「地域づくりと地域包括ケアシステムの構築」 (講師) みつぎ総合病院 名誉院長 山口 昇氏
  - パネルディスカッション 「在宅医療と介護を支える地域づくり～発信!!在宅医療や介護、地域づくりの現場から～」  
自分や家族の療養について考えるとともに、私たちにできることを考えてみませんか。
- ▶申込締切 3月2日(月)
- ▶申込方法 電話、ファックス、メールで各健康いきいき応援センターまでご連絡ください。

☎北部健康いきいき応援センター (22) 0193  
☎南部健康いきいき応援センター (32) 5250